

和歌山の街道
粉河街道

「文書館だより」では今まで高野街道（第14号）、古座街道（第15号）と自動車普及していない時代、人や荷車が往来した明治・大正期の街道を紹介してきました。第3回目の今回は粉河街道をとり上げます。

**粉河寺への参詣道
3つの粉河街道**

図1は、明治末期の粉河町とその周辺の地形図です。

西国第3番札所粉河寺の門前町として発展してきた粉河町は、近世以降、紀ノ川中流域の商品流通の中心地となりました。粉河町は紀ノ川筋の交通の要衝として、市街地から淡路街道が西に延び、南を大和街道が走り、明治30年代半ばには高野街道（麻生津ルート）の起点が王子村東野から移行していました。明治以降、粉河街道と名のつくものは



写真 粉河寺（本堂と庭園）

3ルートあります。公式の県道「粉河街道」は明治期の「粉河寺大門―粉河駅」（明治33年10月11日）、大正2年3月31日）、大正期の「大和街道―粉河市街地」（大正2年4月1日）、大正9年3月31日）とも「街道」であった期間は10年前後と短

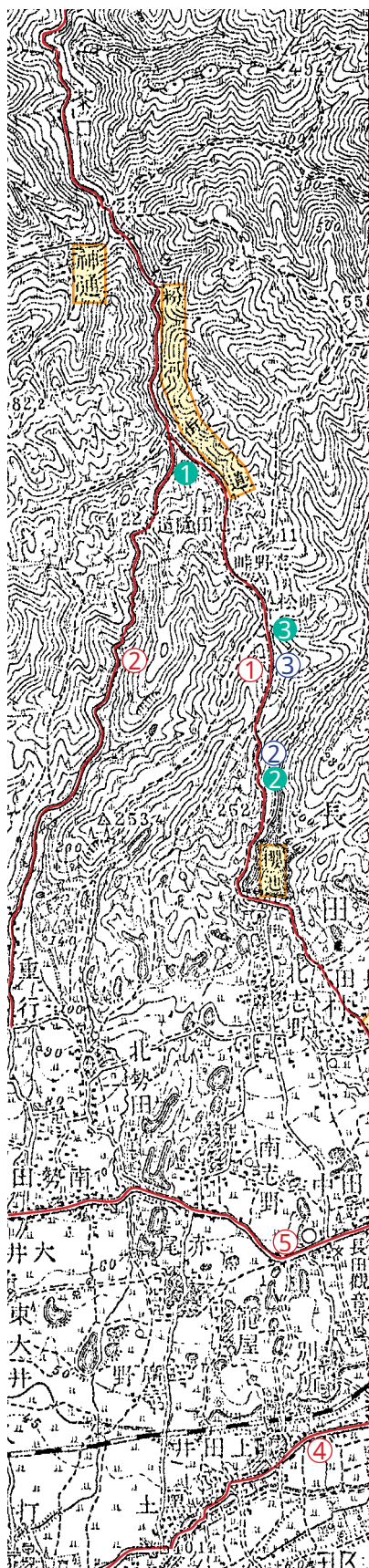


図1 明治末期の粉河町

- (1) 大日本帝国陸地測量部の作成による1/5万地形図「粉河」(明治43年測図・大正6年製版)の一部を2倍の面積に拡大して転載
- (2) 本記事関係カ所や粉河街道等の路線についてはマーキング等、カラーにより加筆
- (3) は写真撮影地点、白抜きは表紙写真
- (4) 道路名： 県費補助里道「志野越大阪往来」、 県費補助里道「大木越大阪往来」、 県道「粉河街道」、 県道「大和街道」、 県道「淡路街道」、 県道「高野街道(麻生津ルート)」

く、長さもそれぞれ9町(1町=109m)、12町と短かったため、粉河街道としてはあまり知られていません。当時の地形図にも記されている粉河街道とは、古くからの粉河寺参詣道であった県費補助里道「志野越大阪往来」のほつでした。

志野越大阪往来

図1で興味深いのは、粉河市街地を出て、桜池・志野峠・神通から泉州にぬけ

る里道に粉河街道という名称が与えられていることです。西国33力所巡礼が盛んだった江戸時代には、泉州方面から第3番札所粉河寺までの最短ルートとして賑わったのがこの粉河街道です。近世以来の粉河街道は、明治16年7月に最初の県費補助里道22路線のひとつとして「志野越大阪往来」とされました。